

第20回 東京大学教養学部 室内演奏会

2015年11月16日(月)

19:00 (開場 18:30)

Monday, 16 November, 2015 7:00 pm (Doors open at 6:30 pm)

東京大学教養学部 駒場コミュニケーションプラザ
北館2階 音楽実習室

College of Arts and Sciences, The University of Tokyo,
Music Practice Room, Komaba Communication Plaza

主催：東京大学教養学部ピアノ委員会 共催：駒場友の会



HISAKO KAWAMURA (pf)



SHUNSKKE SATO (vn)



SEBASTIAN MANZ (cl)



ULRICH WITTELER (vc)

演奏者 PERFORMERS

河村尚子 (ピアノ)

佐藤俊介 (ヴァイオリン)

ウルリッヒ・ヴィッテラー
(チェロ)

セバスティアン・マンツ
(クラリネット)

曲目 PROGRAM

オリヴィエ・メシアン
OLIVIER MESSIAEN (1908-1992)

世の終わりのための四重奏曲
QUATUOR POUR LA FIN DU TEMPS (1940)

レクチャー & コンサート
LECTURE & CONCERT

東京大学の学生・教職員および駒場友の会会員・会友限定 (同伴不可)
入場無料 定員 120名 全席自由
事前に予約が必要です。受付開始は 10月14日(水) からです。
学生・教職員は、駒場博物館の窓口で学生証・教職員証を提示のうえ予約し、
入場券をお受け取りください。
駒場友の会会員・会友は、駒場友の会ホームページ
<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/ilovekomaba/> より予約をしてください。
演奏会当日は、入場券と学生証・教職員証・会員証・会友証をご携帯ください。

This concert is exclusive to students and staff of the University of Tokyo and members of the Friends of Komaba.
Admission free. 120 seats available.
Reservation is required and accepted from Oct. 14th (Wed). Students and faculty may obtain tickets by showing their university ID at the Komaba Museum reception desk.
Friends of Komaba members may reserve tickets through our website <http://www.c.u-tokyo.ac.jp/ilovekomaba/>.
Please bring your ticket and ID with you to the concert.

演奏者プロフィール

河村 尚子 (ピアノ)

Hisako Kawamura



© Hirofumi Itaka

ハノーファー国立音楽芸術大学在学中、ミュンヘン国際コンクール第2位、クララ・ハスキル国際コンクール優勝し一躍世界の注目を浴びる。2004年に日本デビューし、国内主要オーケストラと相次いで共演を重ねる一方、ルイジ指揮ウィーン響、プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管、ピエロフラーヴェク指揮チェコ・フィル等の日本ツアーに参加。

2015/2016シーズンには、M. ホルヌグ(チェロ)とロンドン・ウィグモアホール、R. オルテガ・ケロ(オーボエ)とニューヨーク・カーネギーホールでのデビューなど、同世代の実力派アーティストたちとも多角的な活動が展開される。

新日鉄住金音楽賞、出光音楽賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞、ホテル・オークラ音楽賞などを受賞。

佐藤 俊介 (ヴァイオリン)

Shunsuke Sato



© Sakai Koki.

1984年東京生まれ。モダン、バロック双方の楽器を弾きこなすヴァイオリニストとして、活発にコンサート活動を行っている。

バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッハ協会のコンサートマスターを務める。

モダンの分野では、日本の主要オーケストラはもちろん、ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団他と共演。アメリカでは、10歳でフィラデルフィア管弦楽団にデビューして以来、ボルティモア交響楽団など名だたるオーケストラと共演している。

2010年、ライプツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞など受賞も数多い。

ウルリッヒ・ヴィッテラー (チェロ)

Ulrich Witteler



バンベルグ交響楽団の首席チェリストに就任する以前は、ミュンヘン室内管弦楽団の首席奏者、そしてジェモー弦楽四重奏団のチェリストおよび創設メンバーとして活躍。

特にジェモー弦楽四重奏団の一員として、2008年のARDミュンヘン国際音楽コンクールで第3位および聴衆賞を受賞したほか、ルツェルン、シュヴァルツェンベルク・シュベルティアード、ダヴォス、エンガディン、メクレンブルク=フォアポンメルンなどの各有名音楽祭にも出演。2010北九州国際音楽祭にも登場している。

ソリストとしては、バーゼル交響楽団、オッフエンバッハ室内管弦楽団、ルツェルン音楽祭弦楽合奏団、ミュンヘン室内管弦楽団などとの共演がある。

セバスティアン・マンツ (クラリネット)

Sebastian Manz



© Christine Schneide

2008年9月、当時22歳で“滅多に1位を出さない”ことで名高い、ミュンヘン国際音楽コンクール・クラリネット部門で40年ぶりとなる第1位を受賞して一躍世界にその名を轟かせる。

1986年ハノーファー生まれ。7歳よりクラリネットを学び始め、11歳でザビーネ・マイヤーに学び始め、13歳でソリストとしてハノーファー音楽院オーケストラと最初のツアーを経験した。2010年シュトゥットガルト放送響首席クラリネット奏者に就任。一方、ソリストとしてもバイエルン放送響、シュトゥットガルト放送響、札幌、広響などと共演。2015年7月にはヘルベルト・ブロムシュテット指揮=シュトゥットガルト放送響とニールセン：クラリネット協奏曲をソリストとして共演した。

駒場キャンパスの音楽活動について

1977年に、森泰吉郎氏(森ビル株式会社初代社長)のご寄贈によって緑に囲まれた900番教室(講堂)にパイプオルガンが設置されました。以来、音楽を愛する教職員によるオルガン委員会が中心となって定期的に演奏会が開催され、学生はもとより広く市民の方々にも愛されています。

また、2006年秋には、スタインウェイのフルコンサート・グランドピアノが駒場コミュニケーションプラザ北館2階の音楽実習室に設置されました。音楽実習室では2007年よりオーディションによって選ばれた学生による学生選抜コンサートが開催されるなど、駒場キャンパスの音楽活動の軸となっています。

こうした多彩な駒場の音楽活動は「駒場音楽振興基金」(駒場友の会)からの補助によって支えられています。皆様からのご寄付をお寄せくださいますようお願いいたします。

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部

オルガン委員会
<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/>

ピアノ委員会
<http://piano.c.u-tokyo.ac.jp/>

Tel. 03-5454-6139 (駒場博物館)

Tel. 03-3467-3536 (駒場友の会)



駒場コミュニケーションプラザ 北館への案内図

